

当院に入院する脊髄損傷者の動向について

国立障害者リハビリテーションセンター病院

富岡佳代 井草良子 田村玉美

1. はじめに

近年当院に入院する脊髄損傷者の年齢や受傷原因を見ると、高齢者が増え転倒による受傷が多くなっている。看護部では毎年、病棟単位で入院患者に関する調査を行っているが、脊髄損傷者を対象とした調査は行っていない。そのため脊髄損傷者の動向についての把握は十分ではなかったため今回過去5年間にさかのぼり調査したので報告する。

2. 目的

当院に入院する脊髄損傷者の損傷レベル、年齢、受傷原因、入院目的、退院先を調査し、動向を明らかにする。

3. 調査方法

対象者：平成15年4月1日～平成20年3月31日に当院を退院した脊髄損傷者763名

方法：入退院台帳、リハビリテーションデータベース、診療録よりデータを収集した。

倫理的配慮：データは個人が特定されないように、連結不可能とした。

4. 結果

対象者763名の障害レベルは完全頸髄損傷者44.5%、不全頸髄損傷者15.5%、胸・腰髄損傷者40%で、性別では、男性84%、女性16%であった。平均年齢は45歳（14歳～85歳）であった。

障害レベルをみると、頸髄損傷者の割合は全年度を通して60%前後を占めていた。

年齢構成では20歳代までが平成15年度は27%、平成19年度は16%と減少した。50歳以上は平成17年度から48%前後を占めている。頸髄損傷者をみると、60歳代以上の割合が年々増え平成15年は23%であったが平成19年には36%に増加した。

受傷原因では交通事故が平成15年度には42%であったが平成19年度は28%に減少した。転倒は、平成15年度の6%から平成19年度は12%と約2倍になった。頸髄損傷者をみると、平成15年度の11%が平成19年度には30.2%になり約3倍に増加した。

入院の目的は、治療が過去5年間をとおし約30%を占めていた。

退院先は、自宅が平成15年度の51%から平成19年度67%と増加している。頸髄損傷者の場合でも平成15年度の43%から平成19年度には59%になり、自宅への復帰率は上昇している。

5. まとめ

- 1) 頸髄損傷者の年齢層は60歳代以上が年々増加し、高齢化が目立つ。
- 2) 受傷原因は交通事故が減少し、転倒が増加している。特に頸髄損傷ではその傾向が著しい。
- 3) 当院は訓練目的だけでなく、治療を目的とした入院が30%を占めている。
- 4) 自宅への退院が年々増加している。

